

(様式 4)

公共事業再評価調査

番 号	脱 G-1	事業担当局課	脱炭素・GREEN×EXPO推進局 上瀬谷整備推進課		
事業名	市道五貫目第 33 号線（上川井・上瀬谷地区）道路整備事業		採択年度	令和 3 年度	
施工場所	旭区上川井町～瀬谷区北町		経過年数	4 年	
目的及び 事業概要	<p>【目的】</p> <p>市道五貫目第 33 号線は、旭区上川井町の保土ヶ谷バイパス上川井 I C 付近から瀬谷区五貫目町の国道 246 号目黒交差点付近までの横浜市道で、東名高速道路に近接し、重要物流道路である保土ヶ谷バイパスに直結する路線です。また、緊急輸送路に指定されており、災害時にも重要な役割を担う道路です。一方、当路線内には主要渋滞箇所が 2 箇所存在しており、日常的に混雑が見られます。</p> <p>また、近接する旧上瀬谷通信施設においては、郊外部の新たな活性化拠点の形成を目指し、観光・賑わい地区や物流地区の事業予定者との計画協議を進めており、新たな土地利用により周辺道路における交通量の増加が想定されます。</p> <p>そのため、日常的な渋滞の解消を図るとともに、旧上瀬谷通信施設地区へのアクセス交通に対応するため、当路線の拡幅整備を行うものです。</p> <p>事業概要</p> <p>現道拡幅（現況幅員 11～22m）</p> <p>延長約 1,900m、幅員 22～28m（車道 4 車線、両側歩道）</p>				
			当 初(事業採択時)	変 更(令和7年度)	
	事業期間		令和 3 年度から令和 10 年度	令和 3 年度から令和 15 年度	
	計画交通量		19,700～32,100（台/日） 道路種別：第 4 種 1 級	19,500～28,800（台/日） 道路種別：第 4 種 1 級	
	事業費	合 計		41 億円	60.4 億円
			測量設計費	4.5 億円	4.5 億円
			用地補償費	15.9 億円	15.9 億円
			工 事 費	20.6 億円	40.0 億円
			国 費	22.5 億円	33.2 億円
		市 費	18.5 億円	27.2 億円	
変更内容		<p>【事業期間の延伸】</p> <p>地権者との用地交渉にあたり、電線共同溝の整備に必要となる連続した用地の確保に時間を要したことに加え、占用企業者との調整により整備スケジュールを精査し、令和 15 年度まで事業期間を延伸します。</p>			

	<div>【計画交通量の変更】</div> <div>ベース OD の変更等により、計画交通量を変更しています。</div> <div>事前評価時点:計画交通量 19,700～32,100(台/日、第4種1級)</div> <div>再評価時点:計画交通量 19,500～28,800 (台/日、第4種1級)</div> <div>※計画交通量に変更がありましたが、道路構造の変更の必要はありません。</div> <div>【事業費の増額】</div> <table><thead><tr><th>項目</th><th>変更理由</th><th>金額</th></tr></thead><tbody><tr><td>地盤改良等の追加</td><td>追加の詳細地質調査の結果、軟弱地盤対策(地盤改良工法等)が必要となり、増額。</td><td>約 5.9 億円</td></tr><tr><td>昼間作業から夜間作業への変更</td><td>当初昼間作業で検討していた箇所が、関係機関との施工協議により、夜間作業の必要が発生したことによる増額</td><td>約 4.0 億円</td></tr><tr><td>工事諸経費の見直し</td><td>事業区間の一部が新たに人口集中地区(DID 地区)に指定されたことにより、工事諸経费率の補正が必須となったことによる増額。※1</td><td>約 3.9 億円</td></tr><tr><td>労務費等の高騰</td><td>資材価格や労務費の高騰による増額 ※2</td><td>約 4.6 億円</td></tr><tr><td>週休2日制度の実施</td><td>週休2日制度の取組割増5%による増額</td><td>約 1.0 億円</td></tr><tr><td colspan="2">合計</td><td>約 19.4 億円</td></tr></tbody></table> <div>※1 人口集中地区(DID 地区)</div> <div>総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が 4,000 人／km2 以上でその全体が 5,000 人以上となっている地域。人口集中地区で工事施工する場合、作業効率などの観点から、経費に割り増し補正を行うものです。</div> <div>※2 建設工事デフレーターによる算出</div>	項目	変更理由	金額	地盤改良等の追加	追加の詳細地質調査の結果、軟弱地盤対策(地盤改良工法等)が必要となり、増額。	約 5.9 億円	昼間作業から夜間作業への変更	当初昼間作業で検討していた箇所が、関係機関との施工協議により、夜間作業の必要が発生したことによる増額	約 4.0 億円	工事諸経費の見直し	事業区間の一部が新たに人口集中地区(DID 地区)に指定されたことにより、工事諸経费率の補正が必須となったことによる増額。※1	約 3.9 億円	労務費等の高騰	資材価格や労務費の高騰による増額 ※2	約 4.6 億円	週休2日制度の実施	週休2日制度の取組割増5%による増額	約 1.0 億円	合計		約 19.4 億円
項目	変更理由	金額																				
地盤改良等の追加	追加の詳細地質調査の結果、軟弱地盤対策(地盤改良工法等)が必要となり、増額。	約 5.9 億円																				
昼間作業から夜間作業への変更	当初昼間作業で検討していた箇所が、関係機関との施工協議により、夜間作業の必要が発生したことによる増額	約 4.0 億円																				
工事諸経費の見直し	事業区間の一部が新たに人口集中地区(DID 地区)に指定されたことにより、工事諸経费率の補正が必須となったことによる増額。※1	約 3.9 億円																				
労務費等の高騰	資材価格や労務費の高騰による増額 ※2	約 4.6 億円																				
週休2日制度の実施	週休2日制度の取組割増5%による増額	約 1.0 億円																				
合計		約 19.4 億円																				
上位計画等	<div>横浜市中期計画(2022-2025)</div> <div>2040 年頃の「横浜市のありたい姿」に向けた 10 年程度の戦略と、4年間に重点的に取り組む政策を掲載。</div> <div>戦略5『新たな価値を創造し続ける郊外部のまちづくり』</div> <div>・政策 26-5 郊外部における新たな活性化拠点の形成</div> <div>・政策 28-4 多様な移動ニーズに応じた自転車利用環境の整備</div> <div>戦略8『災害に強い安全・安心な都市づくり』</div>																					

		<div>・政策 33-4 緊急輸送路等の確保 戦略9『市民生活と経済活動を支える都市づくり』 ・政策 36 交通ネットワークの充実</div>																														
	関連事業	本事業範囲に近接して施行されている「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業」や、本道路と市道環状4号線が交差する目黒交番前交差点において施工されている「市道環状4号線交差点改良事業」があり、一体的に事業を進めています。																														
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	<p>トラック運転手に2024年度から時間外労働の上限規制が適用され、物流への影響が懸念されており（物流2024年問題）、隣接して工業集積地域や卸流通業務施設の集積地区が立地する当該路線においても、トラック待機時間の削減など、より効率的な物流へのニーズが高まっています。</p> <p>2024年度から建設業における時間外労働の上限規制が適用されるとともに、事業採択時と比べ資材価格や労務費が上昇しています。</p>																														
	事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)	<p><費用便益分析></p> <p>国土交通省の「費用便益分析マニュアル」(令和7年2月)に基づき、B/C を再算出しています。</p> <table><tr><td colspan="2"></td><td>事業全体</td><td>残事業</td></tr><tr><td colspan="2">割引率</td><td colspan="2">4%(2%)</td></tr><tr><td colspan="2">総便益(B)</td><td>70億円(117億円)</td><td>70億円(117億円)</td></tr><tr><td colspan="2">総費用(C)</td><td>61億円(59億円)</td><td>12億円(14億円)</td></tr><tr><td colspan="2">費用便益比 (B/C)</td><td>1.2(2.0)</td><td>5.7(8.5)</td></tr><tr><td rowspan="3">感度 分析</td><td>[交通量－10%]</td><td>1.04(1.8)</td><td>5.1(7.6)</td></tr><tr><td>[事業費＋10%]</td><td>1.1(1.9)</td><td>5.2(7.9)</td></tr><tr><td>[事業期間＋20%]</td><td>1.1(1.9)</td><td>5.2(8.1)</td></tr></table>			事業全体	残事業	割引率		4%(2%)		総便益(B)		70億円(117億円)	70億円(117億円)	総費用(C)		61億円(59億円)	12億円(14億円)	費用便益比 (B/C)		1.2(2.0)	5.7(8.5)	感度 分析	[交通量－10%]	1.04(1.8)	5.1(7.6)	[事業費＋10%]	1.1(1.9)	5.2(7.9)	[事業期間＋20%]	1.1(1.9)	5.2(8.1)
				事業全体	残事業																											
		割引率		4%(2%)																												
		総便益(B)		70億円(117億円)	70億円(117億円)																											
		総費用(C)		61億円(59億円)	12億円(14億円)																											
		費用便益比 (B/C)		1.2(2.0)	5.7(8.5)																											
		感度 分析	[交通量－10%]	1.04(1.8)	5.1(7.6)																											
			[事業費＋10%]	1.1(1.9)	5.2(7.9)																											
	[事業期間＋20%]		1.1(1.9)	5.2(8.1)																												
<p>※便益については、走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少を対象としています。</p> <p>※費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがあります。</p>																																
<p><定性的効果></p> <p>○慢性的な混雑の緩和</p> <p>当路線には主要渋滞箇所が2箇所あり、日常的に混雑が発生しているため、当路線の拡幅整備により、交通容量が増加するため混雑の緩和が期待されます。</p>																																
<p>○緊急輸送路の強化</p> <p>当路線は緊急輸送路に指定されており、拡幅整備と合わせ電線共同溝</p>																																

		<p>の整備により無電柱化を図ることで、災害時の円滑な避難・救助活動や物資供給など市民生活や横浜経済を支える防災・減災機能を高めます。</p> <p>〔その他特記事項〕 特になし</p>
--	--	---

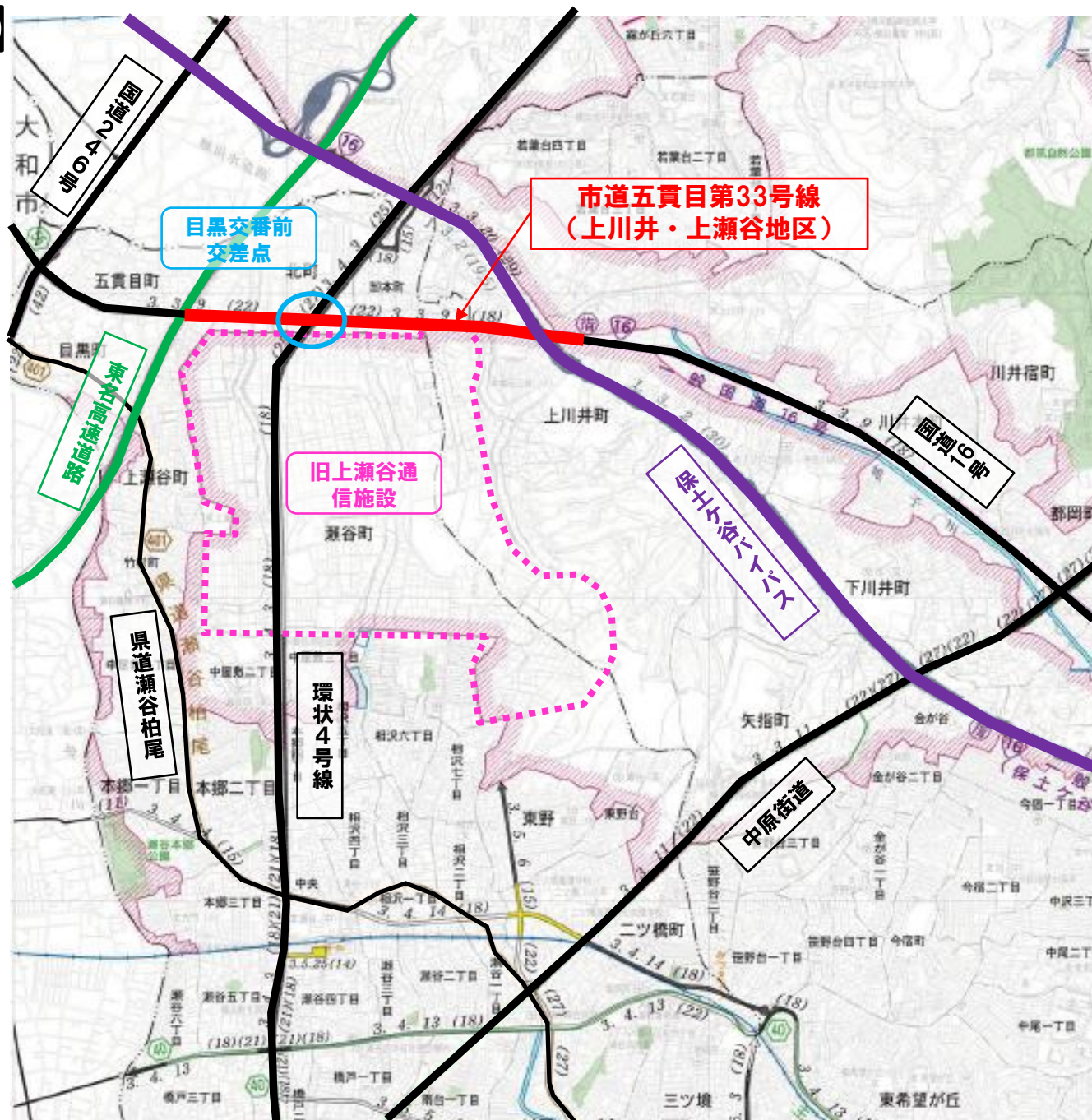
事業の 進捗状況	事業進捗率%	<p>令和7年度は過年度に引き続き、用地取得の実施と、取得済み用地における拡幅工事を実施しています。</p> <p>また、令和9年度以降に整備予定である電線共同溝の整備については、占用企業者(5者)との協議を進め、埋設位置を設定しています。今後、沿道需要や地先交渉により、整備計画を更新していく必要があります。</p>
	39%	
	用地取得率%	
	91%	
	供用等の状況	
	未供用	
事業の課題 及び 進捗見込み	<p>用地取得に時間を要していますが、令和6年度末時点で、用地取得率は91%に達しています。引き続き残りの用地取得を進めるとともに、施工可能な範囲について工事着手しており、早期の完成を目指します。</p>	
その他 (コスト削減項目等)	<p>【コスト削減】</p> <p>拡幅における建設発生土について、隣接する事業である「旧上瀬谷通信施設地区土地地区画整理事業」などとの工事間流用を行い、運搬費及び残土処理費のコスト削減を図ります。</p> <p>【地域まちづくり等への貢献】</p> <p>(1)全線に渡り歩道部の幅員を2.5m以上確保することで、現状、歩行者のすれ違いが困難な区間が解消されます。</p> <p>(2)自転車の通行空間が確保されることで、歩行者との分離が可能となり、安全性が向上します。</p> <p>【環境への配慮】</p> <p>(1)舗装には騒音低減を目的に低騒音舗装を用います。</p> <p>(2)再生材の使用やLED照明などグリーン購入の実施を行います。</p> <p>(3)舗装には低炭素アスファルト混合物を使用します。</p> <p>【防災への配慮】</p> <p>(1)道路整備により事業範囲の土砂災害特別警戒区域の指定の解除の実施。</p> <p>(2)緊急輸送路に位置付けられており、4車線化及び無電柱を図ることで防災・減災機能の向上</p>	

その他	—	
添付資料	・別紙1 案内図 ・別紙2 位置図 ・別紙3 現況写真 ・別紙4 標準断面図 ・別紙5 事業進捗状況 ・別紙6 計画交通量の変更に対する補足	
対応方針	<div>継続</div>	計画通り(上記計画を実施)※1
		一部見直し(上記計画を変更)※2
		【見直し内容】
	中止	

対応方針とした理由	<p>本路線は、慢性的な交通渋滞が発生していることに加え、重要物流道路である保土ヶ谷バイパスを介し、国際戦略港湾である横浜港と主要物流拠点とを連携する重要な道路です。</p> <p>地盤改良工の追加や物価上昇等により事業費の増加や事業期間の延長が生じていますが、費用対効果は確保されており、用地の取得状況も91%と順調に進捗しています。</p> <p>また、隣接する旧上瀬谷通信施設地区においては、新たな土地利用が計画されるなど、地域の活性化のみならず横浜市西部地域の経済活動の向上に資する事業であることから、継続することとします。</p>
-----------	--

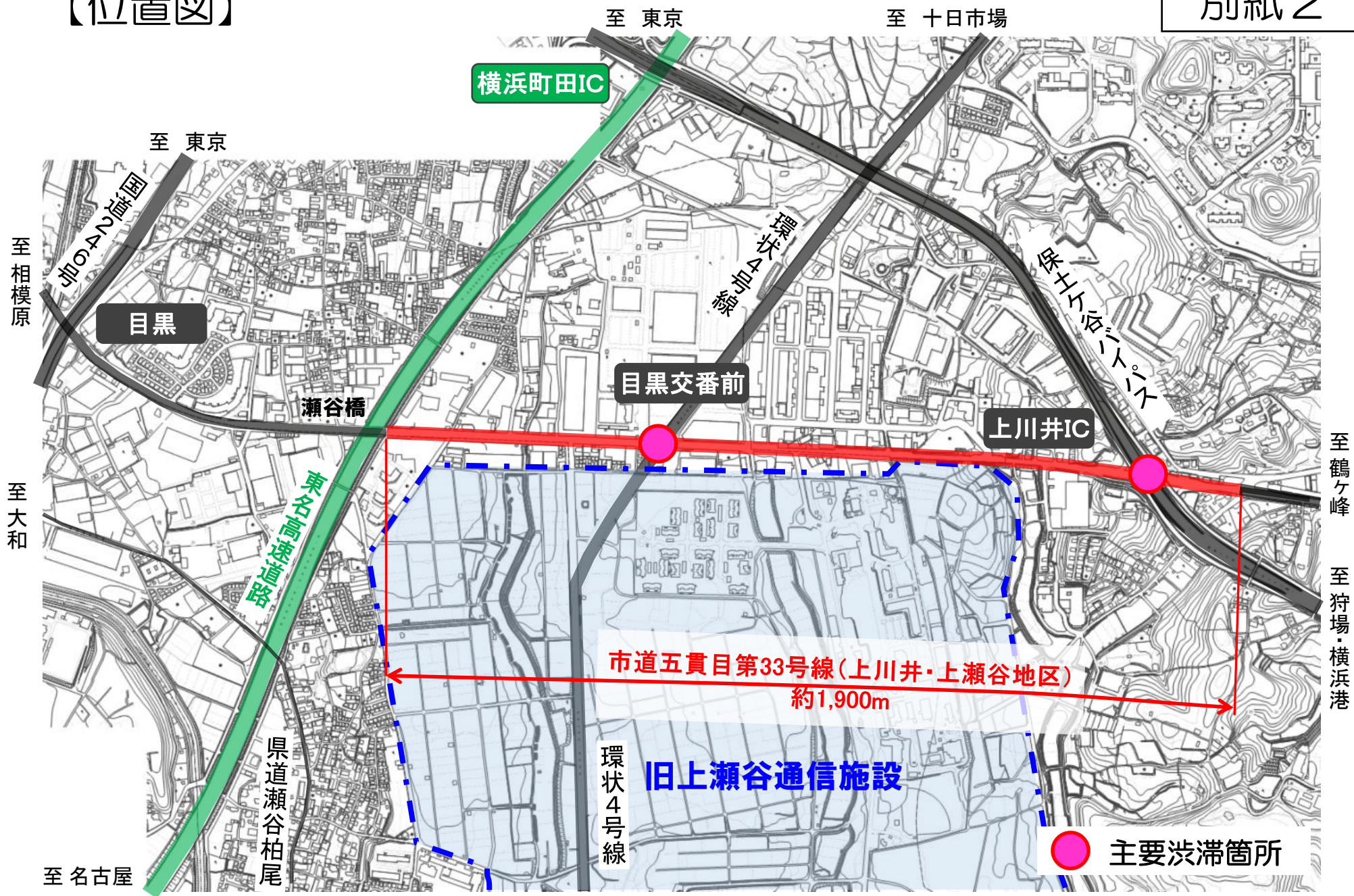
※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。



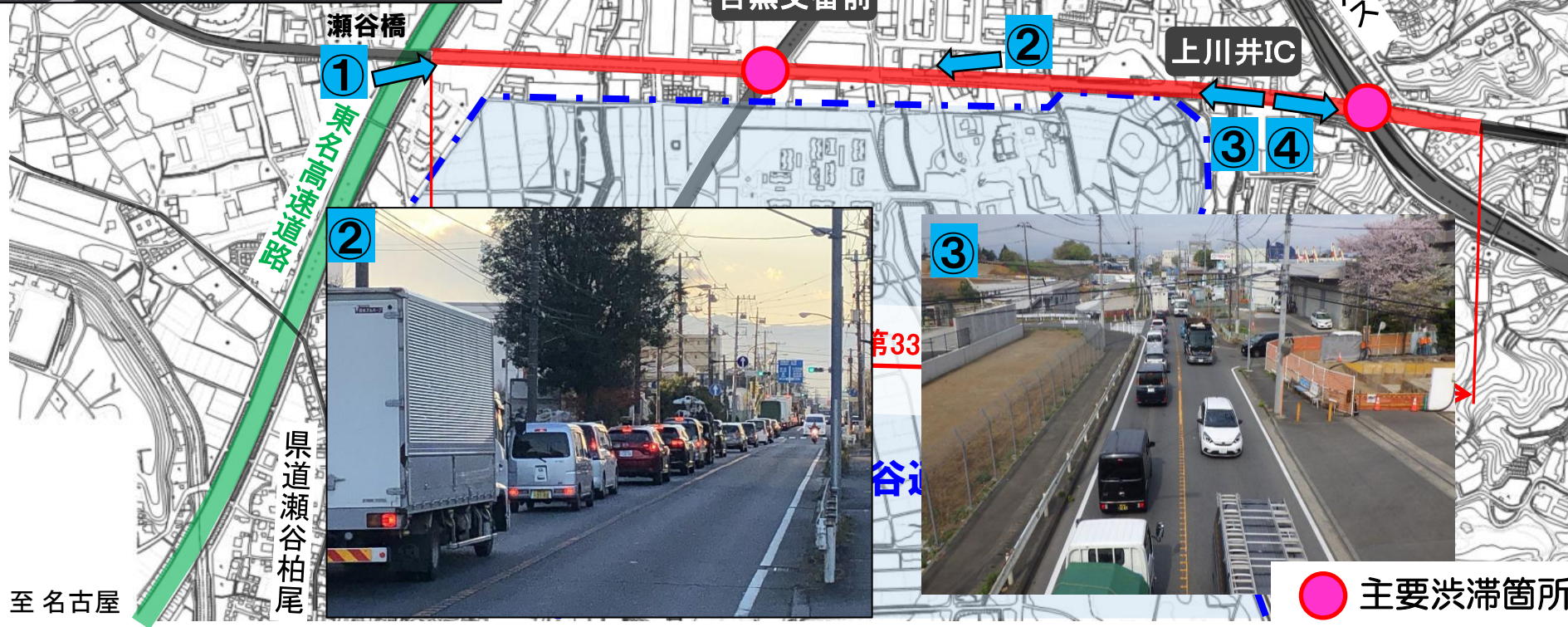
【位置図】

別紙2



【現況写真】

別紙3



至大和

至名古屋

県道瀬谷柏尾

第33

谷

至鶴ヶ峰

至狩場・横浜港

● 主要渋滞箇所

：事業範囲

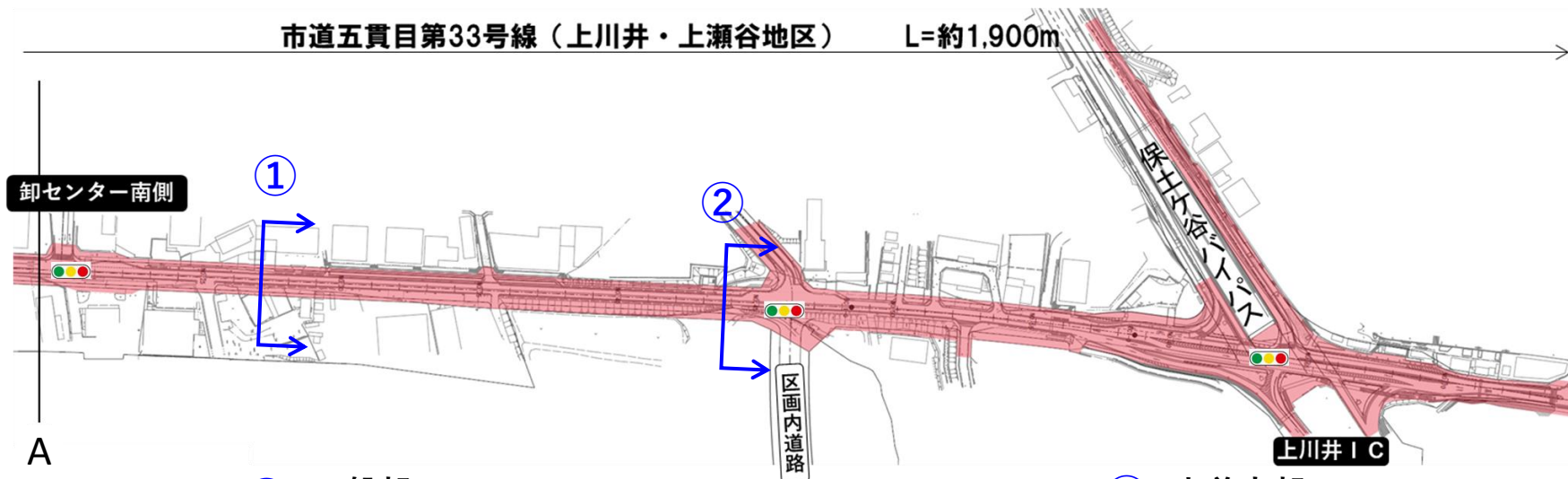


市道五貫目第33号線（上川井・上瀬谷地区） L=約1,900m

別紙4

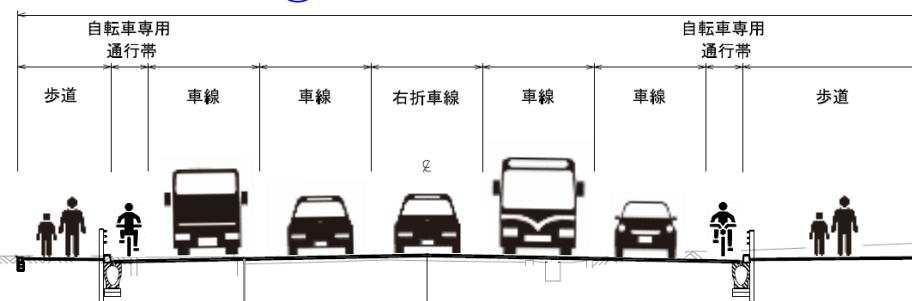
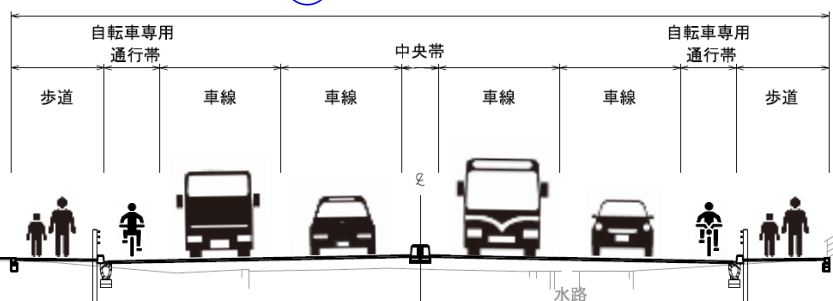


市道五貫目第33号線（上川井・上瀬谷地区） L=約1,900m



① 一般部

② 交差点部

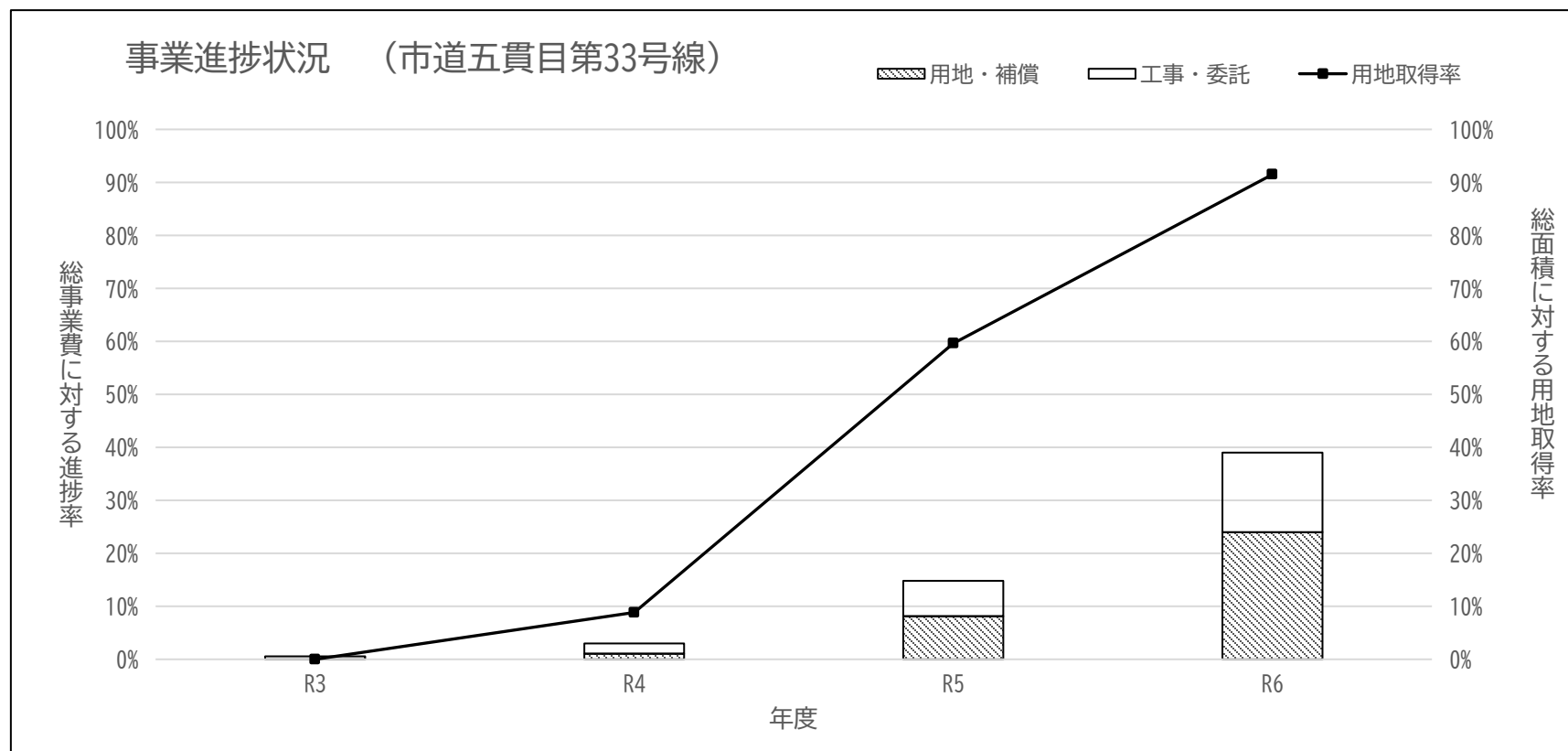


別紙5

事業進捗状況（市道五貫目第33号線）

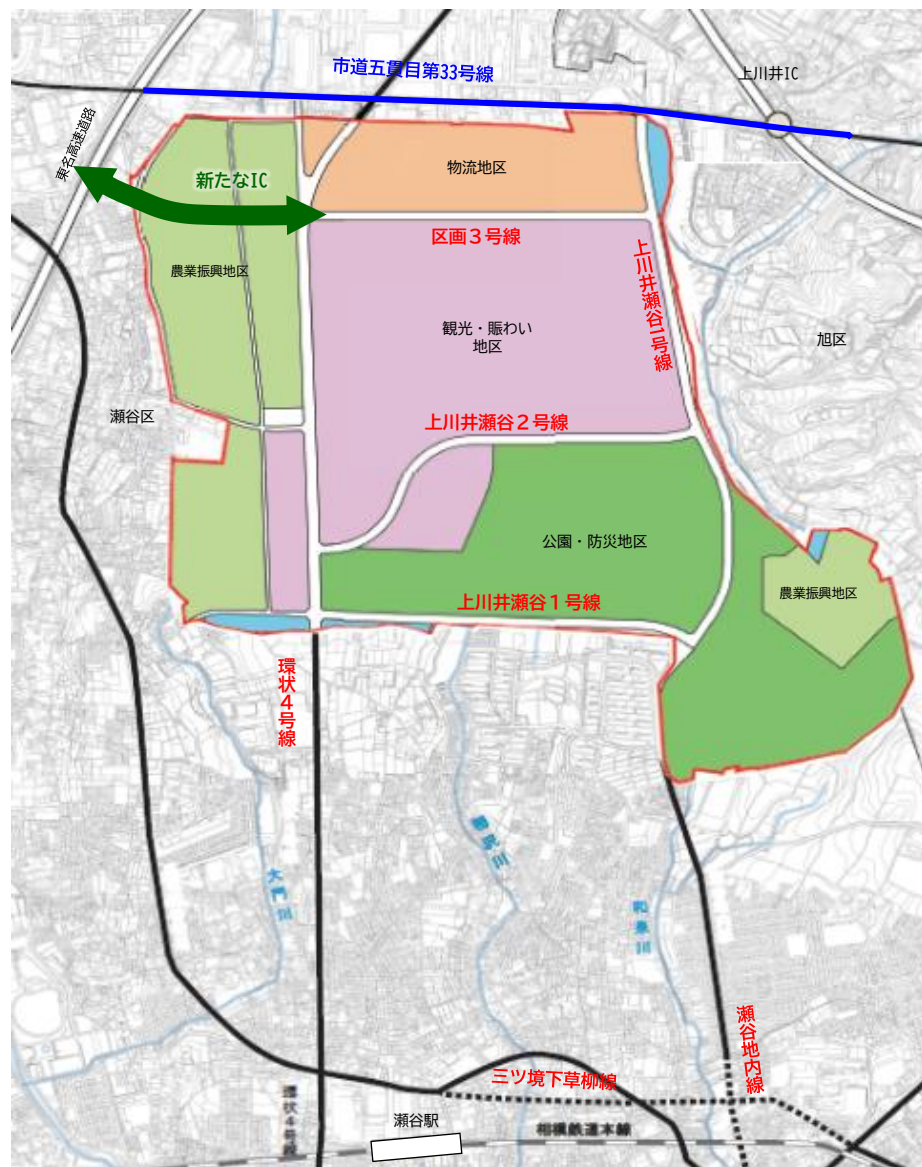
（単位：百万円）

年度	単年度事業費			累計事業費			事業進捗率			用地取得		
	合計	用地・補償	工事・委託	合計	用地・補償	工事・委託	合計	用地・補償	工事・委託	取得面積（m2）	累計(m2)	用地取得率
R3	34	0.0	34	34	0	34	1%	0%	1%	0	0	0%
R4	148	65	83	182	65	117	3%	4%	3%	357	357	9%
R5	712	427	285	894	492	402	15%	31%	9%	2052	2409	60%
R6	1464	957	507	2358	1449	909	39%	91%	20%	1287	3696	91%
合計	2358	1449	909							3696		



【参考】計画交通量の変更に対する補足

将来土地利用完成時



計画交通量は将来土地利用完成時における各地区の特性を考慮して設定しています。

なお、新たな土地利用により見込まれる交通需要については、地区ごとの様々な交通特性を有しており、現状予測されるトラックやバス、自家用車等の交通量の増加に対しては、本事業のほか、新たなICの整備や南側エリアでの瀬谷地内線等を含む周辺道路整備と連携しながら交通の円滑化を図ることとしています。

【参考】将来土地利用等の完成予定時期と道路整備

2027年頃：市道五貫目第33号線(車道部の4車線)

2029年頃：瀬谷地内線

2030年台前半：新たなIC

2043年頃：公園全面供用

※物流、観光・賑わい地区は事業予定者により検討中